播磨の聖人「亀山雲平先生」を発掘する・・・シリーズ10回

第3回目

藩校「好古堂」での教育

亀山雲平顕彰会代表

講師：長野哲　先生

日時：11月23日（金）Pm1:30～3:00

場所：白浜公民館1F会議室

今回の講演は・・・・

☆亀山雲平先生、激動の幕末期に江戸昌平黌で学ぶこと10年余。

＊＊付録・「凧祭りの古風景」を紹介します。

秋

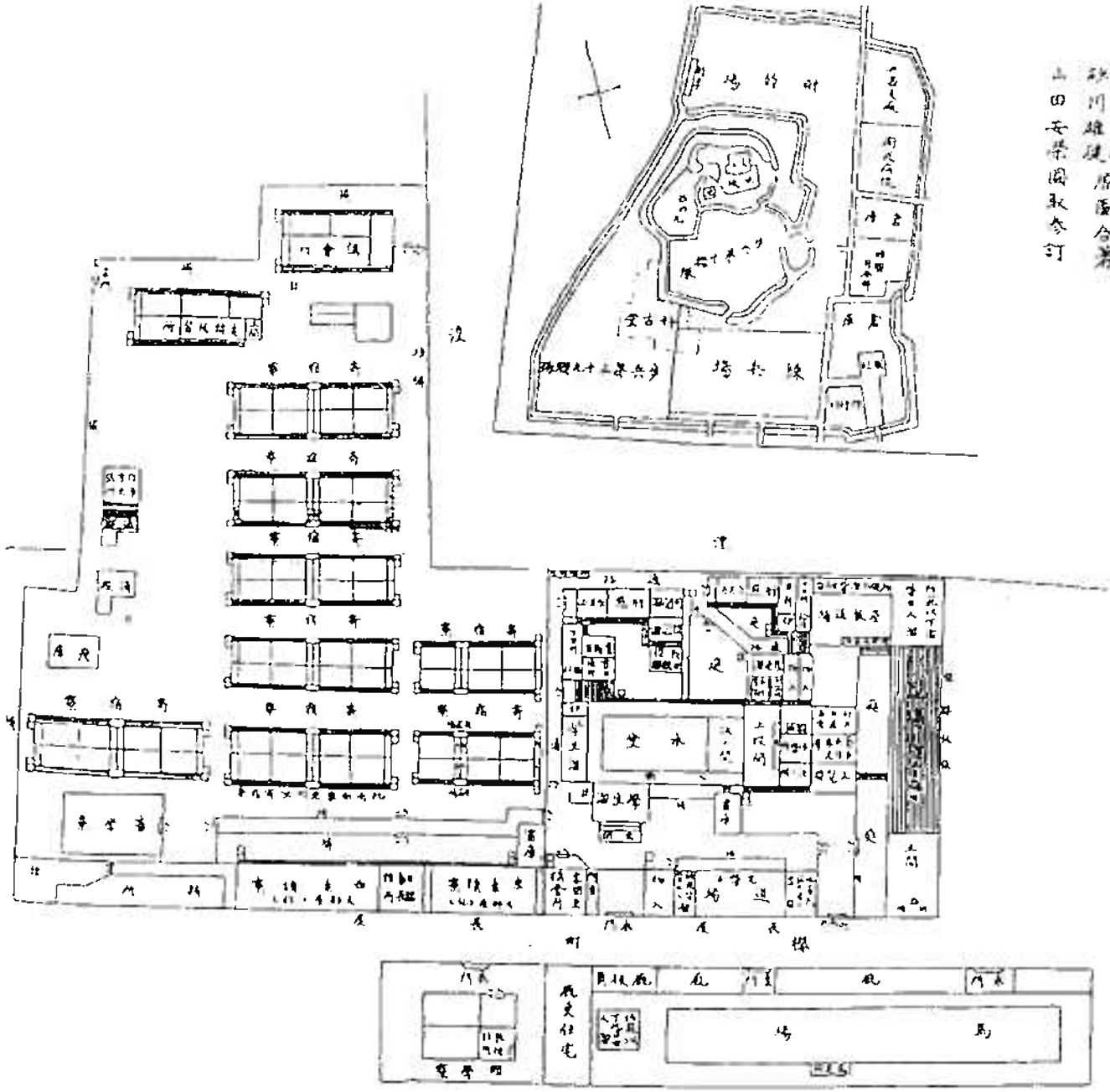
関口存心（山路弥吉）の生涯

年号	西暦	事績	諱名	参考事項
文政　5年	1822	1月30日佐山百之の次男として誕生する	忠寛	文政4年仁井山校を開く
天保　3年	1832	藩命儒学好古堂に入り漢籍句読に学ぶ		9月病に罹り53才にて没す
10年	1839	4月26日藩分の内通目方、物産手当い仰せ付けられる。 （　7月5日上の本俸を仰せ付けられる　）	忠愛	天保6年4月27日忠寛誕生する。
11年	1840	4月15日学問精励につき褒賞として時代　金200疋を賜う		
12年	1841	儒学関係業務を仰せ付けられる		6月14日病合寺院75才にて没す
13年	1842	4月5日学問精励につき2人二士扶持の手当を賜う。 8月好古堂詰講頭を仰せ付けられる。		仁井山校を廃し学宿舎を大手前好古堂に移す
14年	1843	2月25日指南手伝を仰せ付けられる。依怙贔屓取扱の廉より。 閏9月30日病気届により没す。予なきにより治定により急御役を罷く。 後大番を仰せ付けられる。12月23日御暇を免ぜられる。		
弘化　元年	1844		忠寛	3月好古堂詰講頭より4月3日御講の席に出席自らこれに講じ、 天保講を実施。年10月10日37才江戸において卒す
3年	1846	9月22日御用掛免ぜられる		
嘉永　元年	1848			5月27日病臥70才にて卒す
3年	1850	9月21日講武所定詰合を仰せ付けられる。 12月24日江戸昌平坂学問所詰御免仰せ付けられる。 同日講武所定詰合御断につき金百疋を賜う		
4年	1851	正月18日江戸昌平坂学問所へ入門、佐藤捷蔵一門に講学する		
6年	1853	2月26日江戸昌平坂学問所御生徒詰支配仰せ付けられる。 6月3日アメリカ船浦賀へ渡来につき海岸防備、中小姓仰せつけられる。 12月1日講武習所定詰学問所掛御免仰せ付けられる。	忠誠	忠誠8月10日25才江戸において卒す
安政　元年	1854	5月1日講武所詰講頭取並席の節、格式三尺手熨、外に高次席より頭料を賜う。7月17日役定席組一統下賜される。 12月21日講武所詰にて講釈斗目一つ及び金5両賜う		
2年	1855	3月28日藩公初の入国につき御供仰せ付けられ、5月18日江戸発駕、御道中順次番相勤める。 5月御暇中出精につき金200匹賜される。 6月1日好古堂教授仰せ付けられる。 12月29日数年出精相勤めたるにより御増10石下賜される。		10月安政大地震、藩邸潰家60才没す
3年	1856	6月15日御用掛仰せ付けられる。 8月15日嫡男を儲した。 7月11日江戸年番仰せ付けられる		8月15日藩公好古堂を改築し、体裁を定める
4年	1857	4月1日御入部の節供仰せ付けられる。 5月1日嫡男は人少につき御附するよう老中より達せられる。 12月24日御内用にて羽二重小袖1反、金2両2分下賜される		5月下田条約締結される
5年	1858	7月21日御内用にて金2万両2分拝領する。		
5年	1859	8月5日三年之在職え召され御紙入1つ拝領する。 9月11日江戸御発駕、御供にて10月2日御暇に係る12月23日御内用にて御羽織拝領		
万延　元年	1860	4月2日御年賀として金15両下賜	忠敏	3月桜田門外の変・忠寛10月14日25才江戸において卒す
文久　元年	1861	4月8日講武所詰講頭取並として長袴着用御免被仰附する。 11月5日入目仰せ付けられる。教授格前の通り		
元治　元年	1864	正月11日高金20石下賜される。 3月6日御用向有るによって出府仰せ付けられる。 4月7日御暇に係る。 8月従来より御講釈料御手当付御給金500疋下賜される。 11月20日御内意御用向有るによって出府仰せ付けられる		源論諫甲子の禍
慶応　3年	1867	3月16日忠誠御供仰せ付けられる。御用筋の上5月11日御暇に係る	忠悼	忠誠2月3日病没す。四卒と号す。 10月大政奉還
明治　元年	1868	正月12日御用掛兼講頭の儀仰せ付けられ御暇之節14日御出勤御学問人数出席申、差控の儀仰せ付けられる。 2月25日御上京御供仰せ付けられる。 右御中介添役ならびに本　業務を仰せ付けられる。 3月26日御暇に係る。 4月1日御上京御学問所詰仰せ付けられる。 同7日陪従仰せ付けられる。 同8日御上京御介添役御勝仰せ付けられる。	忠祥	改元9月16日　1月17日御暇願 12月10日沼平・明成2校ならびに医学校に教授をおく。 忠祥5月20日病没す。法世と号す

		6月14日絵図門御番仰せ付けられる。 7月8日中小姓組頭御取次兼務を仰せ付けられる。 11月24日中小姓組頭廃役仰せ出される。但席はこれまでの通り		
2年	1869	3月総社詰呼寄番方仰せ付けられる。 10月1日名を雲平と改める		同邦6月18日姫路藩知事に任ぜられる
3年	1870	9月8日学問御相手申し付けられる。 12月学問御相手勤めるについて御数付御召物御手より拝領す		
4年	1871	正月25日願いにより隠居		7月14日廃藩置県の詔書出る
6年	1873	7月23日松原八幡神社祠官仰せ付けられる。 8月17日御奥御掃除により地域提要取調べ申し付けられる。 同年10月3日完了により解雇となる。 12月19日大教正有馬頼成より教導職9級試補申し付けられる		
11年	1878	11月28日神道事務局より播磨国神道事務分局副長担任仰せ付けられる。		
14年	1881	8月13日内務省より権大講義に補せられる。		
17年	1884	9月17日1等仮試験合格証を兵庫県皇典講究分所より下附される。 10月1日観潮講堂新築落成		
18年	1885	9月20日神道官長福羽美静より大講義に補せられる		
19年	1886	10月16日飾東郡祠官掌取締申し付けられる。 同19日権少教正に補せられる		
20年	1887	6月16日神道姫路分局内局副長申し付けられる。 12月26日少教正に補せられる		
21年	1888	11月23日飾東郡祠官掌取締担任を申し付けられる		
23年	1890	8月12日兵庫県皇典講究分所受持委員申し付けられる		
31年	1898	1月1日神職定年届姫路山部郡分局長申し付けられる。 同11日姫路神社及び射楯兵主神社々司に兼補せられる。 5月6日病気にて観潮講堂において没す。 姫路龍松山最福寺先塋の地に葬る		

H1.12.2.12 書留

好古堂之圖



好古堂教師

伊藤　蘭齋　名仲蔚、前橋以來教授安永二年侍講
那波　魯堂　名師會、通稱主膳、一時教授
高濱　季文　通稱周輔、天明七年八月教授
石野　橘園　名懋天明年中教授
高濱　樂齋　通稱省輔、文化十四年七月教授
堤　公愷　通稱鴻佐、文政十二年五月教授、仁壽山校兼勤
齋藤　守澄　通稱幾之進、文政年中教授
根岸　根處　通稱行藏、天保十二年教授
角田　楮園　通稱心藏、嘉永二年教授
秋元　安民　通稱正一郎、嘉永年中國學寮教授
渡邊　劣齋　名璋、嘉永四年書學寮教授
菅野　白華　名潔、通稱猶介、嘉永年中教授、文久三年副督學、慶應元年督學兼勤
松平　棣山　名惇典、通稱孫三郎、嘉永年中督學
秋元　潤宇　通稱三郎兵衛、安政初年教授
多田　勉屏　通稱順平、安政初年教授
亀山　節宇　名美和、通稱敬佐、安政三年六月朔日教授、後文久三年十一月五日大目付兼勤、後侍講
春山　弟彦　通稱欽次郎、文久三年七月國學寮教授
田島　藍水　通稱廉介、慶應年中教授
羽田省一郎
竹末桧菟藏
生形　周行
伊奈　平八
五十嵐治之介
上月　豊陸
庭山　武正
合田　嶽澤
近藤　抑齋
篠崎庄之助
宇津木覺居
小屋　喬武

❶姫路藩（酒井時代）の家老、木多惣右衛門正明（木多平馬）の子。木多平馬。九服時のものと伝えられ、明治初年の撮影らしい。チョンマゲと帯刀など、まだ武家社会の風潮を残す貴重な写真。

亀山雲平の門人 萬延元年二月四日 名入

閫人録

自癸亥至己未十月

門人名錄

芸窗　亀山美鯨輯

安政六年己未冬十一月十二日入門

肇之助　河合七郎　未二十二歳

塾舎居之　大岡亟之丞　未十七歳

萬延元年庚申正月十二日入門

松岡神之亟　由十九歳

同五年戊午二月十日塾席ニ而没

陸井親之助　同十二歳

同六年己未二月十六日塾席ニ而没

秋元刀吉　同十歳

校正者　須賀子彰治

姫路藩校 好古堂

門人録

筑字 亀山美和 輯

安政六年　巳未冬十一月十二日入門　河合七郎　二十二歳
大島惣右衛門厄介　大島正之介　十六歳

慶応元年　庚申正月十二日入門　松島神之丞　十五歳
坂井銀之助　十二歳
秋元　力晉　十歳
小島伊右衛門二男　小島申三良　十四歳
中澤佐一郎三男　中澤金之助　十六歳
宇津木一次郎弟　宇津木鐵三郎　十二歳
大橋覚太夫世悴　大橋熊之丞　十歳
松嶋斧弥　世悴　松嶋成太郎　九歳
米澤一左衛門孫　米澤榮二郎　十歳
鈴木念兵衛　孫　鈴木新太郎　十歳
長澤平右衛門譲　長澤平太郎　九歳
前田都次左衛門二男　前田　基弥　十一歳
宿田満蔵　弟　宿田　久次　十二歳
中根佐一郎二男　松崎仁兵衛二男　松崎　乙八　十一歳
原　源一　二男　原　榮八　十一歳
大田源左衛門二男　大田　根祐　十歳
山口伍之蔵二男　山口　五八　十歳
高須理右衛門二男　高須　酉二　十二歳
牛込十郎右衛門　牛込申次郎　十三歳
柴田太郎左衛門二男　柴田万四郎　十歳
菅谷真一　二男　菅谷　鐵吉　十四歳
川端助内　世悴　川端萬五郎　十二歳
後閑金之助　世悴　後閑節之助　十歳
角田金太郎　角田　榮次郎　十歳
関野寧次郎世悴　関野永次郎　十歳

慶応元年　二月四日入門　但宅入門　本多遠気揺世悴　本多　平馬　九歳
本多遠気揺二男　本多　啓松　十歳
右同

慶応元年　二月十三日入門　多賀貫八郎世悴　境野大四郎　十一歳
多賀九八郎　十歳

慶応元年　三月八日入門　荒木忠二太五男　荒木　鎮吾　十三歳

慶応二年　十一月朔日入門　二月二十四日入門　芝木桂一郎　十歳
関善之系　二男　関　悦三　八歳
大谷長蔵右衛門二男　大谷　兵八　九歳
中根　豊祝　弟　中根止二郎　十歳
矢島三十郎養子　矢島　新次　十五歳

文久元年　辛酉正月二十九日入門　姫谷平左衛門世悴　犬塚　梅次　十歳
熊谷　平吉　九歳
梶木　源五郎　十三歳
小野田七左衛門世悴　小野田吉太郎　十一歳
根岸太一　世悴　根岸又一郎　九歳
矢島種左衛門世悴　矢島正四郎　十歳
根岸弥次右衛門世悴　根岸　又六　十一歳
西澤秀次郎世悴　西澤其一郎　十歳
境野球馬　四男　境野　増吉　九歳
有坂加次助　弟　有坂　万次　十歳
中里古左衛門二男　中里　弁蔵　十歳

文久元年　二月二日入門　濱島重左衛門孫　濱島辰五郎　十二歳
町田弥平次三男　町田善三郎　十歳
岩品四郎右衛門世悴　岩品秀之助　十歳
小林成左衛門世悴　小林　鉄弥　十一歳
秋元正一郎世悴　秋元力次郎　九歳
後藤三之助　十歳　後藤　常弥　弟
萩原毛佐久二男　萩原　進吉　十一歳
細野其十郎二男　細野民之吉　十一歳
三品　駿助　十二歳
森田　熊吉　十一歳
赤堀　吉馬　十歳
矢島三郎左衛門世悴　矢島三次郎　十歳
井上清右衛門孫　井上　汎次

文久元年　二月二日入門　勅使河原五三郎弟　勅使河原恵次　十二歳
渡部半助　三男　渡部　益三　九歳
福倉　成弥　十一歳
中澤　正吉　十二歳
松平　勘六　十三歳
内野　孝吉　十歳
三木　良淳　十七歳
尾木　鎮吉　十八歳

文久元年　六月十七日入門　三木良元　養子

文久元年　七月二日入門　松崎佐平　厄介

文久二年　壬戌正月十三日入門　関　虎市　十一歳
関友之助　世悴　久松　右内世悴　十歳
八木藤四郎世悴　八木　吉弥　十歳
津田統太郎　弟　津田鉦二郎　十歳
井田矢太夫世悴　井田　幸吉　十歳
池谷金七郎　孫　池谷榮之助　十歳
清野助右衛門孫　清野　昌吉　十歳
勅賀右衛門五男　勅賀　三吉　十歳
汗坂　蒋藤四男　汗山　三　十歳
松崎仁兵衛四男　坂坂　文弥　十一歳
木暮権九郎四男　松崎　仙吉　十歳
佐藤順一郎二男　木暮　終吉　十歳
吉津九十郎二男　佐藤　有蔵　十歳
蒲生　傳蔵　弟　吉津　良二　十二歳
八木藤四郎世悴　蒲生　琴二　十歳

文久二年　二月二十三日入門　飯塚源右衛門二男　飯塚　茂蔵　十歳

文久二年　三月十三日入門　久松又三郎二男　久松　勇馬　九歳
中根　繁治　弟　中根　三吉　十歳

文久二年　四月二日入門　上野勢助　世悴　上野左源太　九歳

文久二年　四月十七日入門　飯岡藤右衛門世悴　飯岡　助五郎　十一歳
塩山半右衛門世悴　塩山半太郎　十歳

芳賀静七　世悴　十歳
文久二年　五月二十二日入門　蔀部市蔵　肥悴
文久二年　十月二十二日入門　折井　半蔵
文久二年　十一月三日入門　岩塚九右衛門孫
文久二年　十二月八日入門　出淵新兵衛二男
文久二年発亥正月十四日入門　但宅入門　植松佐一郎世悴
大谷次郎太郎世悴　大谷　鄭八　十一歳
深倉彦二郎世悴　熊谷哲之助　十二歳
町田弥右衛門世悴　町田久太郎　十歳
貴田藤蔵　世悴　貴田清次郎　九歳
大澤　為助　孫　大澤庄太郎　十二歳
宮地久左衛門二男　宮地　久司　九歳
大橋儀一左衛門二男　大橋　鍵吉　十一歳
後藤七左衛門二男　後藤孝次郎　十一歳
牛込次太夫五男　牛込甘四郎　十一歳
白倉又左衛門二男　白倉清次郎　十一歳
間瀬鶴右衛門四男　間瀬　波蔵　十一歳
塚田友之丞厄介　塚田文次郎　十二歳
勅使河原五三郎四男　勅使河原友次　十二歳
朝比奈権次　弟　朝日奈禾吉　十歳
増田延蔵　二男　増田延之助　十二歳
竹内孫右衛門世悴　竹内　領二　十一歳
沼田甚二郎世悴　沼田　万吉　十三歳
石井午二　世悴　酒井清右衛門三男　酒井又七郎　十一歳
文久二年　一月二十四日入門　新井　勉蔵　十二歳
文久二年　二月六日入門　但宅入門　石川　松二　十四歳
松下綱右衛門厄介　赤石助右衛門養子　赤石　恒作　二十一歳
文久二年　二月二十四日入門　境野　求馬　孫　境野象之助　九歳
文久二年　三月二十三日入門　梅津　金八世悴　梅津栄太郎　十一歳
文久二年　四月二十五日入門　芦谷顕七　世悴　芦谷建一郎　十三歳
芦谷源七　弟　芦谷　文吉　十三歳
文久二年　六月二十七日入門　杉山友館兵衛甥　杉山熊次郎　十六歳
文久二年　七月二十一日入門　丹羽孫助　世悴　丹羽　斯蔵　九歳
文久二年　七月二十三日入門　荻生門右衛門世悴　蔀生　筑蔵　十二歳
文久二年　八月二十七日入門　本多駅之助　世悴　本多駅之丞　十歳
文久二年　十月三日入門之処願右衛門事快二付遠慮二相成　空地　十四歳
文久二年　十月二十三日入門　吉市藤之進　孫　吉市兵衛郎　十歳
文久二年　十一月二日入門　伊良子庄之助世悴　伊良子鉄之助　十一歳
文久二年　十一月十七日入門　高須鶴之助　八歳
文久二年　十一月二十五日入門　本多平十郎　孫　本多　平次　十一歳
文久四年　甲子正月十二日入門　秋元第之助　十四歳

文久四年　一月十六日入門　酒井八郎右衛門二男　酒井千代作　十歳
朝倉渓右衛門第　朝倉　寅三　十一歳
文久四年　一月二十三日入門　森　福二郎　十歳
荒木太三太六男　荒木　辰蔵　十三歳
根岸権次郎　根岸権次郎　十歳
菅尾　米蔵　十三歳
太田　清蔵　十五歳
芦谷　運吉　十二歳
本多　万次　十一歳
川端寿之助　川端寿之助　九歳
蔀部幸助　四男　蔀部三四郎　十歳
熊原　常弥　九歳
木城長二郎　十歳
石本　猪像　九歳
本多已之助　九歳
矢島　銑太　十歳
福島徳三郎　九歳
松崎貞之助　十歳
中根　豊元　十歳
宇野斐之助　十一歳
町田辰二　十歳
金原　祐吉　九歳
長沢孫次郎二男　九歳
鈴木已之助　九歳
小野田七左衛門二男　十二歳

出淵　雄七　十一歳
中村長蔵　世悴　中村　数蔵　十歳
大田平三郎世悴　太田　彦弥　十五歳
下田重七郎二男　下田　常馬　八歳
松崎弥弥　二男　松崎留次郎　十一歳
関田儀次兵衛二男　関田　物次　九歳
芳賀静七　二男　芳賀兵次郎　九歳
関　雄一　孫　関　淳蔵　十歳
鈴木伴次　世悴　鈴木　準次　十二歳
小林重兵衛世悴　小林重太郎　十一歳
堀越半兵衛　孫　堀越又之丞　十二歳
塚本二百右衛門孫　塚本已之弥　十一歳
町田友作　世悴　町田恵蔵　十一歳
五代又七　世悴　五代領次郎　十一歳
喜多緑介　世悴　喜多緑三郎　十二歳

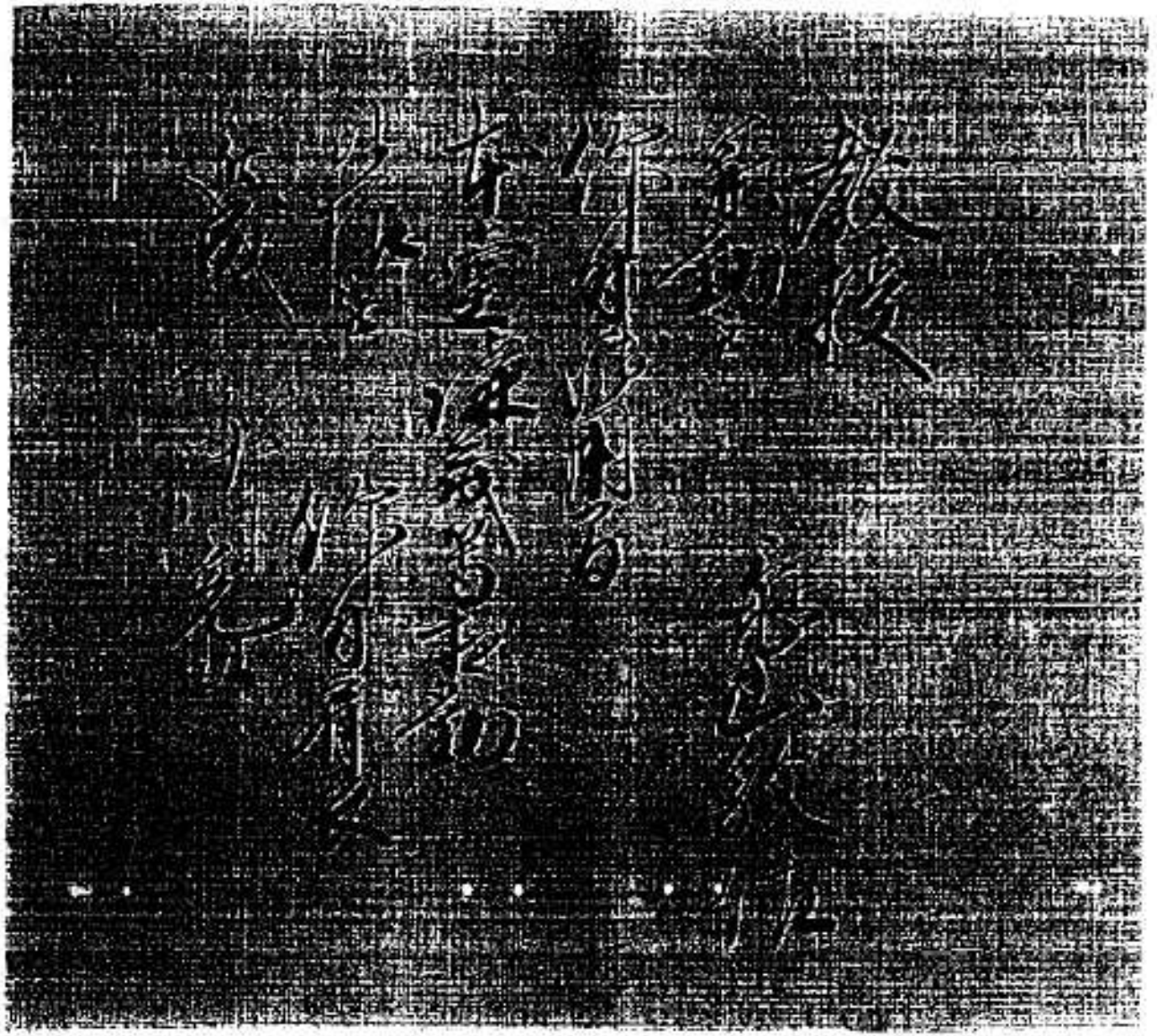
金原助左衛門世悴　金原小之丞　十歳
松倉助右衛門世悴　松倉鉄五郎　九歳
山田儀太夫世悴　山田筋次郎　十歳
柴田弥左衛門世悴　柴田伸之助　十一歳
石川金次郎世悴　石川卯一郎　十歳
石本八十右衛門弟　石本　純六　十一歳
細野五大夫世悴　細野　豊七　十歳
原田儀右衛門世悴　原田　彦弥　十歳
利根川兵衛二男　利根川雄次郎　九歳
根岸弥次右衛門二男　根岸増之丞　九歳
伊藤申三郎　弟　伊藤十六丞　十二歳
水野弥七郎二男　水野又四郎　十五歳
石原新太郎　世悴　石原新太郎　十八歳

酒井千代作　十歳
朝倉　寅三　十一歳
熊原　常弥　九歳

宇野斐之助　十一歳
町田辰二　十歳
金原　祐吉　九歳
長沢孫次郎二男　九歳
鈴木已之助　九歳
小野田七左衛門二男　十二歳

入門本状無

好事多磨，終於行
教授之劇本，為之序
其知己之言，可勝
易牙知音作矣



平成三年六月押印

図1　仁奈山校舎絵図（下田　天香・明治四十三年）